

お鍬山 植物たより (H26. 4. 12)

「山笑う」季節となりました。味気なかったお鍬山もコナラなど草木が芽吹き始めました。桜もソメイヨシノは散りはじめましたが、ソメイヨシノとちがい青葉とともに真白なオオシマサクラや紅色を帯びた白い花のヤマザクラが咲き始めています。お鍬山には遊歩道沿いの各所に十数本の大木があります。西山橋からもしっかりと見る事ができます。



シュンランは昔に比べると少なくなりました。それでも北の谷筋や中央広場周辺のコナラの根元などに生えて、春のランとして淡黄緑色の花を咲かせています。



冬場に赤い実で人目を引いていたアオキも紫褐色の花を咲かせています。植物には、同じ花に雌しべ、雄しべを一緒につけるもの、同じ木に雄花、雌花をつけるもの、そして雄花と雌花が全く違う木につけるものなど様々ですが、アオキは雌雄異株、雄花と雌花が違う木につきます。雄の木は4個の雄花が四つの目のようにはっきりわかります。雌の木は雌しべが1個です。今年の赤い実がまだ残っています。



西山橋西交差点から北に向かう市道沿いに紅色を帯びた白色の花を見る事ができます。4月初旬には満開だったシデコブシです。大木が2本自生しています。これだけの大木は市内でもそうありません。西側の遊歩道斜面に500本も植栽したユキヤナギも散り始めましたが、勾配が急な遊歩道もユキヤナギを見ながら歩けば快適です。



これからは、自生しているコバノミツバツツジやヤマツツジ、モチツツジの花が、紅紫色、朱赤色、淡紅紫色と、色とりどりに花を咲かせてくれます。

毎日が楽しみの散歩となります。